



学生とともにのぼす京都プロジェクト共同事業 —えいでんアート— アートによる地域公共交通機関の活性化研究



連携企業・団体名 叡山電鉄株式会社

1. 事業名：えいでんアート 2023

2. 実施体制：

1) 指導責任者：デザイン学部建築学科・教授 葉山 勉

2) 参加学生数

①実数：13名（学部1年生1名、2年生3名、3年生5名、4年生1名、大学院1年生1名、2年生2名）

*えいでんアーティスト受賞者2名（学部1年生1名、3年生1名）

②事業実施期間内の活動日ごとの参加学生数（実人数）を累積した数：2,327名（活動日179日×13名）

3. 事業実施期間：令和5（2023）年7月～令和6（2024）年3月

4. 府政課題：8

大学生が地域の観光資源に触れ、地域の人との交流の機会をもつことで地域の魅力を感じるとともに、その魅力を同世代の大学生に共有する取組

5. 事業目標：

在学生や中高生が、叡電沿線地域の史跡、名勝等の文化財、歴史的風土、自然の風景地、良好な景観、その他文化、商店等に触れ、その魅力をアートで表現した作品を一般へ公開することで、住民とともに地域の魅力を再発見していく。

6. 事業概要：

本学の協定先である叡山電鉄（株）、京都精華学園中学校・高等学校と連携して、在学生や中高生が叡山電車や沿線地域をアートで表現することで、地域の魅力向上と活性化を目的とした「えいでんアート2023」を開催する。

7. 実施詳細

1) 活動概要

「えいでんアート2023」 展覧会および活動一覧

実施日	活動日数	活動場所	来場者、参加者数	得票数
9/19（火）～10/1（日）、11～20時	13	四条烏丸COCON KARASUMA内「kara-S」展覧会	—	—
9/26（火）、29（金）	2	叡山電鉄社内プレゼンテーション	20	1292.5
10/28（土）10：00～15：30	1	修学院車庫「第16回えいでんまつり」展示	1,757	325
10/31（火）～12/17（日）	48	京都精華大前駅 構内展示	—	32
11/3（金祝）、4（土）、10～17時	2	京都精華大学大学祭「木野祭」展示	117	252
11/23（木祝）～26（日）、12/1（金）～3（日）、12/8（金）～10（日）、12/15（金）～17（日）、各13～18時（平日のみ19時）	13	出町柳駅ギャラリー展示会	201	182
11/22（水）～12/17（日）10：00～16：30	26	貴船口駅待合室「令月」展示	—	348
12/9（土）11～16時	1	八瀬比叡山口駅「クリスマスステーションin八瀬」展示	1,602	164
12/25（月）～2024年1/7（日）、11～20時、*12/29～1/3は年末年始休業	8	四条烏丸COCON KARASUMA内「kara-S」展覧会／12/26（火）えいでんアーティスト表彰式	—	4
2024年2/6（火）～3/31（日）	55	叡山電車の運行車両（デザイン電車）「こもれび」（2両編成）での展示	—	展示中
2/10（土）、11（日）、12（月祝）、17（土）、18（日）、23（金祝）、24（土）、25（日）、各日13～18時	8	出町柳駅ギャラリーでの展示	展示中	展示中
2/21（水）、22（木）、9～17時	2	「令和5年度 鞍馬小学校作品展」会場での展示	展示中	展示中
2/26日（月）16:05～16:15放映		NHKテレビ「8K鉄道紀行」での紹介	—	—
合計	179		3,697	2599.5

<えいでんアーティストに選出された作品>



叡山電鉄 乗降客数の推移

（単位：千人）

	定期外	定期	合計
2021年度	2,775	2,642	5,414
2022年度	3,610	2,863	6,473
2023年度	4,039	2,945	6,984（予想）

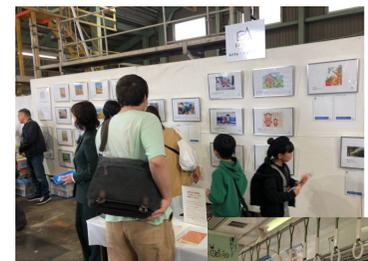
	定期外	定期	合計
2023年度	3,498	2,577	6,075
4～1月実績	541	368	909
2～3月予想	4,039	2,945	6,984

2) 市民からの反響

- ・作家それぞれの表現のし方がとても素敵だと思いました。様々なアートの形が見れてとても面白かったです。
- ・電車の待ち時間が楽しい、よい企画だと思います。今後も継続して続けてほしい。
- ・通勤が楽しくなりました。
- ・京都らしいデザインで、電車にピッタリだと思う。ヘッドマークは実際に叡電がつけて走っているのを見たいと思った。細部まで作り込んであり魅力的。ぜひこのラッピングをした車両に乗ってみたい。
- ・グッズあったら買いたいです！ぜひグッズ化してください。

8. 事業の発展可能性：

本事業により、京都精華大学と叡電沿線地域との連携強化が期待されると同時に、在学生の地域理解が深まり、制作モチベーションが高まる事が期待される。



この取組は、学内の研究プロジェクト（学長指定課題研究テーマ1「地域社会への貢献を目的とする研究、あるいは事業」）として実施したため、学生（アート制作者）は自主的に有志として参加した。結果、叡電や沿線地域に対する意識の高い学生が参画してくれたことで、質が高く、バラエティーに富んだ作品を展開することができ、市民からも好意的な評価をいただいた。